



平和な国際社会の実現に貢献できる人材の育成を目指して ～「ひろしまジュニア国際フォーラム」を中心に～

広島県地域政策局国際課

現状と課題

広島は人類史上初の原子爆弾による破壊と廃墟からの復興を経験した地であり、県では、2011年に、核兵器のない国際社会の実現に向けて、広島が果たすべき使命と役割を「国際平和拠点ひろしま構想」としてまとめ、核兵器廃絶と復興・平和構築に取り組んできました。

これまで、核兵器廃絶運動を中心的に担ってきた被爆者が減少する中で、こうした取り組みを進めていくには、多様な主体と協働しながら、国際平和の実現に向けて具体的な行動が取れ、自ら発信することのできる次世代人材の育成が課題となっています。

ひろしまジュニア国際フォーラム

こうした課題を受けて、広島県では、国内外の高校生が参加して、国際平和についての討議や交流等を行い、平和のメッセージを世界へ発信するとともに、国際的な相互理解を深め、次の世代の人材育成と国際平和の拠点性の向上を目指して、2016年から「ひろしまジュニア国際フォーラム」を開催しています。

フォーラムでは、毎年約80人の青少年が、原爆が投下された8月に広島に集まり、被爆体験の聴講、広島平

和記念資料館やその周辺の見学等を通じて、被爆の実相と復興した現在の広島の姿に触れた上で、核兵器廃絶や復興・平和構築が抱える課題や課題解決に向けて若い世代や広島が果たす役割等について議論します。

数日間の議論の結果は、核兵器のない平和な国際社会の実現に向けた政策提言を含む「広島宣言」としてまとめられます。宣言は、HP等で国内外に広く発信するとともに、今後の政策に生かしてもらうため、日本政府外務省のほか、国連や在京の各国大使館等に送付されます。

宣言を受け取った国連事務次長からは、昨年、次のようなメッセージが寄せられ、参加者の今後の取り組みに対する期待が表明されました。

若者が核軍縮や世界平和のために取り組んでいくことに大変期待しています。若者世代がリーダーシップを発揮していくことは、世界中の人々が都合な真実を認識し、公共の利益のための断固たる行動を起こす手助けになるのです。

中満泉（国連事務次長 兼 軍縮問題担当上級代表）

また、参加者の出身国の大使からもメッセージをいただいております。フォーラムの取り組みは、国際社会にも徐々に認知されつつあります。



平和記念資料館見学



被爆体験講話



チームビルディング

- 一方、フォーラムの参加者からも、
- 広島への悲劇を再確認し、平和への意識が強くなった。
 - さまざまな国の人々の考え方や視点に触れることができ、刺激を受け、貴重な経験だった。
 - リーダーシップの資質を伝える最良のプログラム。

といった評価の声が寄せられており、平和の取り組みに踏み出すためのきっかけを提供できていると考えています。

なお、被爆75年の節目に当たる今年、広島国際平和の取り組みを一層加速させるため、海外の参加対象者をすべての国連加盟国等（193の国と地域）に拡大する予定でしたが、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、規模を縮小して、11～12月にオンラインで実施する予定です。

今後の取り組み

今年からは、参加者一人一人が、フォーラムで経験したことを基に、平和のための行動計画をつくり、具体的



歓迎レセプション



ディスカッション

な行動につなげていくことにしています。

これにより、参加者がフォーラムで考えたことを行動に移し、少しでも世界をより良いものに変え、世界平和の実現に貢献していくことができると願っています。

また、フォーラムの開催に加えて、2019年から、ノーベル平和賞受賞団体である「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」と共同して、将来、外交官や国連職員、国際NGO職員などを目指す若者を対象に、「核兵器と安全保障を学ぶ広島－ICANアカデミー」を開催しています。

これらの取り組みにより、核兵器廃絶や復興・平和構築の第一線で活躍できる人材の育成を図りたいと考えています。

今後とも、国際平和拠点としての広島から、若く意欲のある人材を多く輩出することにより、核兵器のない平和な国際社会の実現に貢献できるよう、若い世代の人材育成に取り組んでいきます。



湯崎英彦広島県知事に広島宣言を手交